

会社・事業所名（フリガナ） トヨタキネンビョウイン 発表者名（フリガナ） ヤマダ マサキ  
 トヨタ記念病院 山田 真紗希



私たちが働くトヨタ記念病院は愛知県西三河北部に位置し、急性期医療を専門とする第3次救急医療施設です。2023年5月に新病院へ移転しました。「笑顔」と「まごころ」あふれる病院～Smile & Heart～を基本理念とし、地域に信頼され、愛される病院を目指しています。

**病棟紹介 外科1：耳鼻咽喉科 口腔外科 眼科 皮膚科 形成外科**  
 スタッフ数：看護師 27名 看護補助者 3名  
 病床数：41床



**チームワークで支える、明るく活気ある病棟です！**

外科1病棟は耳鼻咽喉科、口腔外科、眼科、皮膚科、形成外科を主科とした混合外科病棟で、多くの診療科を対象としています。入院期間が短く、稼働率が高い病棟です。患者家族が安心して過ごせるよう医療チームの一員として最善な看護を提供しています。チームワークで支えあい、明るく活気ある病棟です。

**活動の背景 「看護職の健康と安全が、患者の健康と安全を守る」**

日本看護協会 看護職のワーク・ライフ・バランス（WLB）を推奨

夜勤・交代制勤務に関するガイドライン

- 夜勤負担による心身の健康への影響
- 夜勤が事故発生リスクを高める

WLB支援策（一部抜粋）

- 労働時間管理
- 時間外労働の把握・削減
- 業務整理
- 夜勤・交代制勤務の改善

医療現場の現実

- 24時間365日緊張感のある現場
- 全国の看護師の前残業は70%
- 業務量が多い（予測できない介助量）

看護師の離職率は11%前後

出典：日本看護協会「看護職就業環境調査報告書」第4版（2023年）

医療従事者が安全で質の高い医療を提供し続けるためには、心身の健康が不可欠です。夜勤前残業は疲労や離職率上昇に直結し、医療の質に影響します。日本看護協会はワーク・ライフ・バランスを推奨しており、夜勤負担軽減のため労働環境を改善していく必要があると考え、この問題に取り組むことになりました。

**サークル紹介 ブルーセレクト 2024年結成**

サークルメンバーのQCの参加回数と勤続年数

サークル自己診断（活動前）

サークル分析

- メンバー全員が未経験であること
- 未経験者の育成が必要であること
- チームワークと上司・スタッフとの連携力は経験者・未経験者ともに高い

チームワークと連携力を強みにし、問題解決能力とQC手法の使い方を向上を目指そう！

当病棟では新病院になりQC活動初参加です。チームリーダー以上のスタッフはQC活動経験がありますが、メンバーは全員初参加のため、サークル分析では問題解決能力やQC手法の使い方に自信のなさが表れました。しかし、チームワークと上司・スタッフとの連携力を強みに向上を目指すこととしました。

**テーマ選定** スタッフアンケート：日々の業務で困っていることはありますか？

問題点	重要性	緊急性	経済性	上位方針	短期解決	レベル向上	総合評価
退院調整に自信がない	◎	○	○	△	△	◎	12
夜勤受け持ちの業務に偏りがある	○	△	△	△	○	△	8
動線が長く、業務の効率化が悪い	○	○	△	△	◎	△	10
<b>夜勤業務の心身負担が大きい</b>	◎	○	◎	◎	○	○	<b>15</b>
内服インシデントが多い	◎	○	△	○	○	◎	13
急変時対応に自信がない	◎	○	△	○	△	◎	12
病室の4Sができていない	△	△	△	○	◎	○	10

◎=3点 ○=2点 △=1点

**慢性的な疲労やストレスが蓄積していることに問題視している意見が多数！**

スタッフアンケートしてみると「夜勤業務の心身負担が大きい」の点数が高く、慢性的な疲労やストレスが蓄積していることに問題視している意見が多く上がったため、今回のテーマとなりました。

**問題の明確化**

夜勤看護師の業務内容（17時～翌9時 16時間拘束）

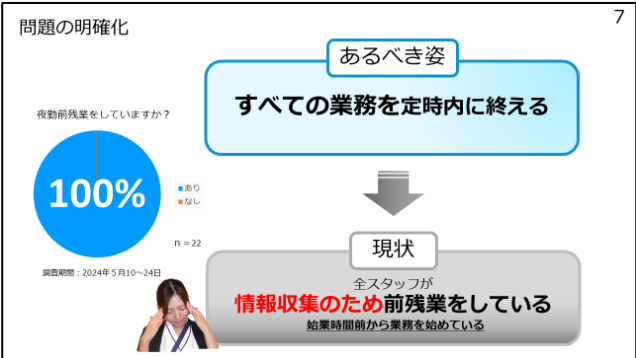
看護師の勤務表

△月の勤務表	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	...
看護師A	夜勤	休	早出	夜勤	夜勤	休	日勤	夜勤	夜勤	休	日勤	夜出	...
看護師B	早出	日勤	夜出	休	夜勤	夜勤	休	日勤	夜出	夜勤	夜勤	休	...
看護師C	夜出	夜勤	夜勤	休	日勤	日勤	休	夜出	夜勤	夜勤	休	日勤	...

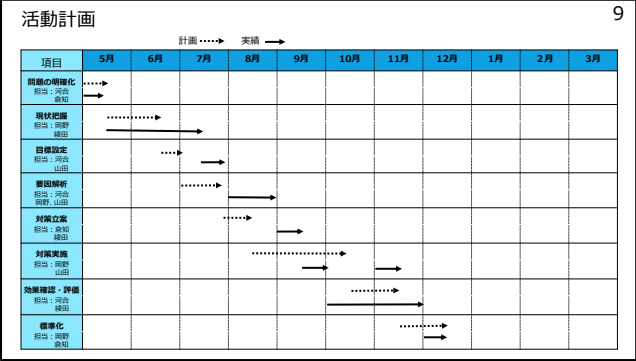
**不規則な勤務+夜勤16時間拘束のため、前残業は心身負担増！！**

夜勤は夕方5時から翌朝9時まで16時間勤務です。看護師3名で41名の患者を担当します。夜間でもやるべき業務が絶えずあり、加えて勤務のシフトは「日勤」「早出」「夜出」「夜勤」がランダムに組まれており、不規則な勤務と16時間の拘束により、前残業の負担が大きく、看護師の心身負担は増強しています。

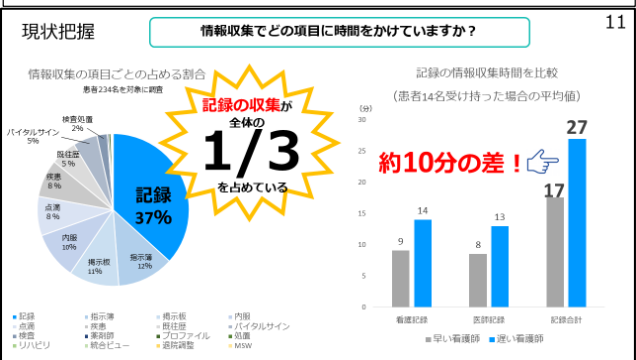
QCサークル紹介	フリガナ サークル名	ブルーセレクト	
		サークル結成年月	会合は就業時間
本部登録番号	8032	2024年 4月	(内) ・ 外 ・ 両方
メンバー構成	5名	月あたりの会合回数	4回
平均年齢	30.4歳（最高37歳、最低24歳）	1回あたりの会合時間	1時間
テーマ暦	本テーマで 1件目 社外発表 1件目	本テーマの会合回数	26回
本テーマの活動期間	2024年 5月～2024年 12月		
発表者の所属	トヨタ記念病院 外科1病棟	勤続	7年



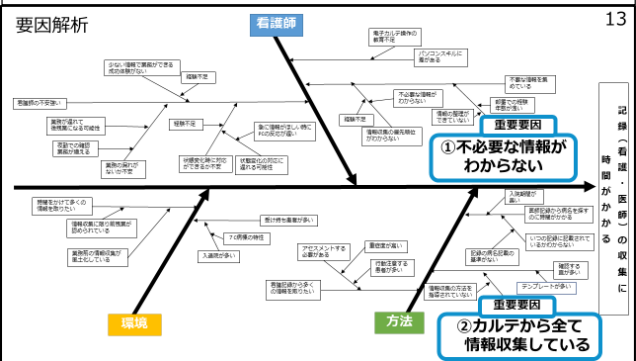
あるべき姿は、「すべての業務を定時に終える」ですが、外科1病棟ではスタッフ全員が情報収集のため始業前から業務を始めており、夜勤前の残業が風土化していました。



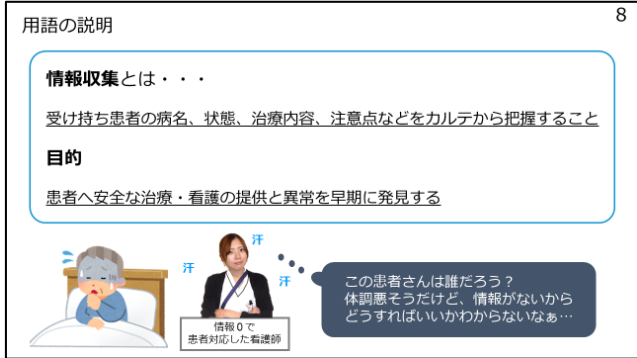
活動計画はステップ毎に役割を決め、計画的にメンバー全員で取り組みました。



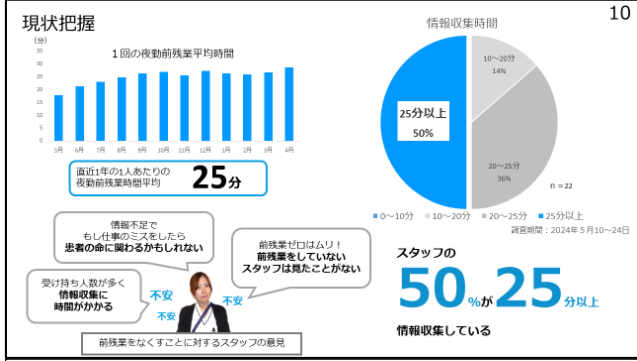
患者234名を対象に情報収集の内容を調査しました。患者の疾患や重症度で情報収集の項目数に差がありますが、記録が全体の1/3をしめていました。情報収集が早い看護師と遅い看護師に分けて記録の情報収集時間を調査すると、早い人は17分に対し、遅い人は27分と約10分の差があることがわかりました。



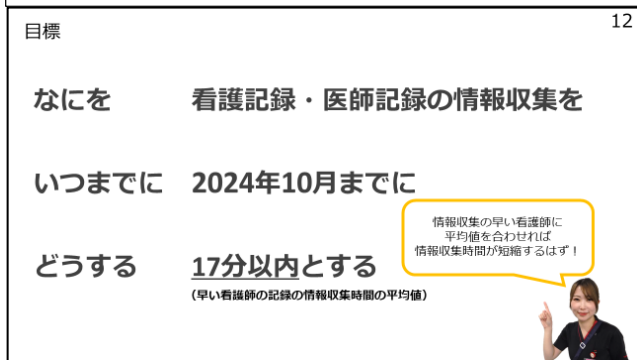
要因分析の結果、①不必要な情報がわからない②カルテからすべて情報収集しているの2つが上がりました。



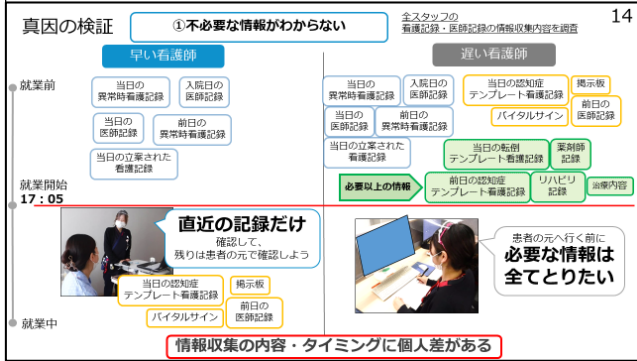
看護師が行う「情報収集」とは、勤務のはじめにカルテから患者の病名や状態、治療内容、注意点などを確認することです。患者へ安全な治療・看護の提供や異常を早期に見出すことを目的としています



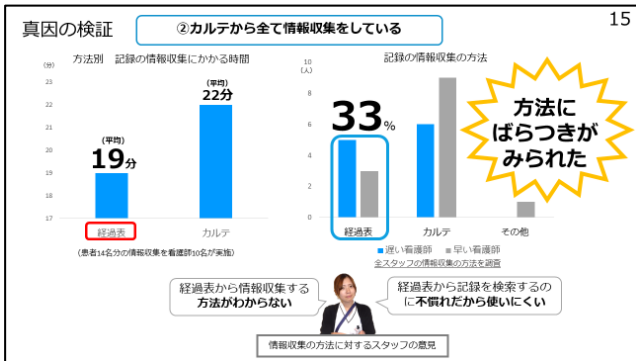
直近1年の一人あたりの夜勤前残業平均時間は25分でした。また、スタッフの50%が25分以上かけて情報収集をしている現状がありました。スタッフの意見として、情報収集に時間がかかる、情報不足のまま患者の元へ行くのは不安だという声が聞かれました。



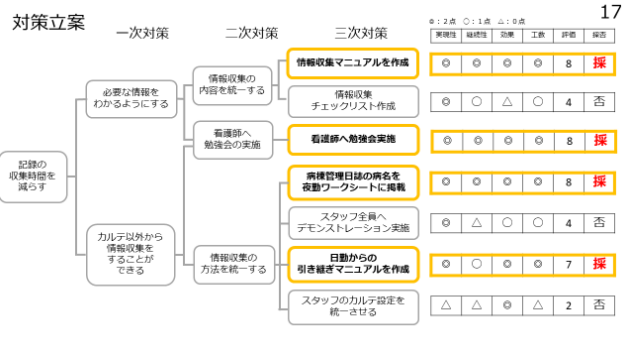
これらの現状から、目標を「看護記録・医師記録の情報収集を2024年10月までに17分以内とする」ことにしました。17分以内の根拠は記録の情報収集が早い人の平均値に合わせることで、情報収集時間を短くできると考えたからです。



情報収集の早い看護師はカルテから直近の記録だけ確認し患者へ検温やケアをしながら情報収集をしているのに対し、遅い看護師はカルテから多くの情報を確認してから患者の元へ向かうため、情報収集の内容・タイミングに個人差があることがわかりました。



看護師に方法別に情報収集をしてももらった結果、カルテより経過表からの情報収集が早いことがわかりました。しかし経過表から情報収集しているスタッフは全体の33%で、方法にバラツキがあることがわかりました。スタッフからは経過表から記録を検索方法が分からない、使いにくいなどの意見がきかれました。



特定された2つの真因に対し方策展開型系統図を用いて合計7つの対策を立案しました。7つの対策をスコア化して点数の高かった4つの対策を採用しました。

### 対策実施 ③夜勤ワークシートの見直し ④日勤から夜勤へ引き継ぎマニュアルを作成

看護管理日誌を印刷  
夜勤受け持ちワークシートに追加

看護記録テンプレートの内容は口頭で申し送り

①記録の検索時間短縮!  
②各勤務帯の情報共有の漏れなし!

TOPIC IN

名札に入るサイズの申し送りカードを作成

カルテを開かなくても病名が分かる!

検索時間が短縮できる!

いつでも確認でき、申し送りに不安なし!

病名が記載された病棟管理日誌を夜勤のワークシートに掲載し、病名がすぐに分かるようになりました。夜勤への引き継ぎマニュアルをポケットサイズで作成し配布。記録内容を口頭で申し送ることで情報収集時間が短縮しました。また申し送り事項を統一することで不安なく情報共有できるようになりました。

### 業務内容の見直し 夜勤業務の見直しがされていない

7夜勤業務マニュアル

17:05 全体の申し送り、日勤受け持ちからの申し送り、ワーキングカンファ  
17:30 夜勤者で各受け持ちの情報共有  
18:00 配薬、食事介助、マウスケア  
19:30 体位変換  
20:00 休憩 (交代で15分ずつ)  
21:00 血糖値確認、尿管の導管、体位変換  
22:00 消灯、薬剤、尿管交換、輸液管理  
23:00 体位変換

業務マニュアルに情報収集の時間が確保されていない

17~18時の業務を改善し情報収集の時間を確保する必要がある

外科1病棟の夜勤業務マニュアルを確認すると業務開始から情報収集の時間は確保されていない状況でした。

### 真因の検証 ②カルテから全て情報収集をしている

経過表からの情報収集で使用しづらい箇所を検証

記録を遡るのに時間がかかる  
医師記録に病名や経過がない  
確認したい情報がテンプレート化されているとページを開く工数が増える

電子カルテの経過表画面

経過表だけでは検索に時間がかかり工数を要する情報がある

経過表の使いにくいところを検証すると、入院期間が長いと直近の医師記録に病名や経過が無いため記録を遡るのに時間がかかる。また、確認したい情報がテンプレート化されているとページを開く工数が増えるところに使いにくさがありました。

### 対策実施 ①情報収集マニュアルを作成 ②看護師へ勉強会を実施

マニュアル内容

- カルテ操作の方法
- 経過表から情報収集する項目
- 日勤時の申し送り事項

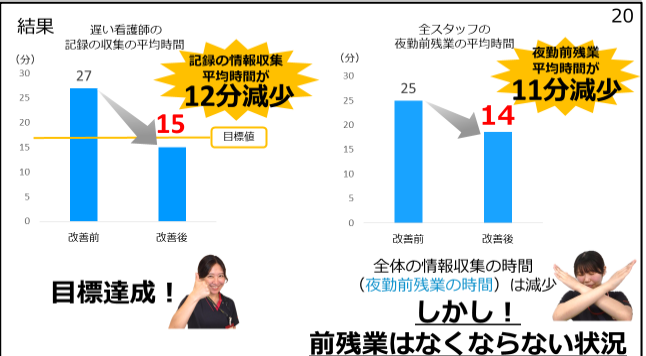
ナースステーションのマニュアル保管場所に配置  
PCにファイルを格納し、電子カルテでいつでも確認できる

情報収集の改善

経過表からの情報収集の方法  
記録から情報収集する項目を制限 (テンプレート記事は不要)

情報収集の方法を統一し業務の効率UP!

情報収集マニュアルを作成し、ナースステーションとパソコンの病棟フォルダに保管し、いつでも情報収集の方法を確認できるようにしました。全スタッフへ、経過表から情報収集する方法や記録から情報収集する項目を制限した勉強会を実施しました。



記録の収集時間を再調査すると、平均27分から15分と12分減少し、目標値を上回りました。記録の収集時間短縮により病棟全体の夜勤前残業の時間は平均25分から14分と11分減少しました。しかし、残業をしている状況は変わらないため、あるべき姿を目指し再度PDCAサイクルを回すことにしました。

### 業務内容の見直し

旧 病棟夜勤マニュアル

17:05 全体の申し送り  
日勤受け持ちから申し送り  
ワーキングカンファレンス

17:30~ 夜勤者間で各受け持ちの情報共有

新 ワークシートに掲載されている情報

病棟入院患者全員分の病名・状態

スタッフ間で情報共有する必要がなくなった

今まで夜勤業務開始後、日勤看護師から申し送りを受け、夜勤者間で病名や状態の情報共有をしていましたが、対策実施後、新ワークシートに病棟入院患者の病名、状態が掲載されたため、スタッフ間で情報共有をする必要がなくなりました。

業務内容の見直し 23

**(新) 病棟夜勤マニュアル**


17:05 全体の申し送り  
日勤受け持ちからの申し送り  
ウォーキングカンファ

17:15 **受け持ち患者の情報収集**

17:45 患者挨拶・検温  
18:00 配膳、食事介助、マウスケア  
下膳 与薬 輸液管理 検温の続き

**30分確保!**


**定時内で  
情報収集ができるようになった**



その結果、情報収集の時間を30分確保することができ、定時内で情報収集ができるようになりました。


業務内容見直しの結果 25

夜勤前残業時間



**病棟全体で  
前残業が  
0分になった!**

改善前: 平均 25分  
改善後: 0分



業務内容見直しの結果、ついに夜勤前の残業時間が平均25分から0分になりました。スタッフ1人1人が効率化を徹底し、短時間で最大限の効果を出せるようになった証です。

無形効果 スタッフの声 ~不安が軽減した体験談~ 27

最初は不安で  
たくさん情報を取っていただけ、  
**多くの情報がなくて、  
患者さんの元へ行ける  
ことがわかりました。**

必要な情報が早く取れるようになり  
**気持ちに余裕を  
持てるようになりました。**

**①心身疲労・  
ストレス軽減**

- 夜勤前の休息時間やプライベートの時間が増えた
- 効率よく情報収集ができるようになった

**②患者さんへの  
信頼度UP**

- 患者さんの元へ早く行けるようになった
- 検温やケアに時間を使えるようになった

**③仕事への  
モチベーションUP**

- 情報収集の方法が日勤でも活かせるようになった
- 余裕を持って患者さんへ看護ができるようになった

**スタッフの意識が変わり  
ワークライフバランスが充実**

前残業0に対し不安だったスタッフも、業務内の情報収集に自信が付き、気持ちに余裕が生まれました。また情報収集時間短縮により患者のもとへ早く行けるようになりました。前残業が0になり、私たちは自分の時間が増えました。私たちがより余裕を持ってケアできることは患者さんの安心に繋がるはずですよ。

標準化・管理の定着 29

	なぜ	なにを	いつ	だれが	どこで	どうする
標準化	情報共有の方法を標準化するため	情報収集マニュアル	10月	QCメンバー	病棟	作成した
標準化	就業時間内での情報収集を継続するため	業務マニュアル	10月	マニュアル担当者	病棟	修正した
教育	新人・異動者が夜勤の情報収集について理解するため	情報収集の勉強会	配属時	プリセプターまたは異動者の担当者	病棟	実施する
管理	定時内で情報収集を定着するため	就業前に情報収集するスタッフがいないか	毎日	リーダー看護師	病棟	確認・声かける
管理	残業が増えていないか確認するため	残業の管理	月末	看護長	病棟	確認する

標準化と管理の定着です。特に苦労した点は就業開始時間を定着することです。活動中は5分前、10分前に情報収集するスタッフがみられたため、繰り返し声をかけ始業時間を徹底させていきました。現在は始業時間が定着し、前残業なく業務に入ることができています。

業務内容の見直し 24

情報収集中にナースコールがあると  
対応しなくちゃいけない  
結局情報収集に時間がかかるなあ

**ナースコールが多く  
情報収集を中断することがある**

**日勤業務の改善**

日勤看護師は受け持ち患者へ業務最終で排泄などの要件がないか確認


困っていることはないですか?

トイレは行きますか?

**夜勤看護師の情報収集する環境を整え  
業務の効率UP!**

お願いしても良いですか?

ナースコールを押そうか悩んでいたからありがたい



業務開始後ナースコールが鳴ると夜勤看護師が対応するため、情報収集を中断することがあるとの意見がありました。そこで日勤業務を見直し、業務終了前に患者へ要件がないか確認し、ナースコールが減少するよう依頼しました。業務最終で患者のもとへ訪室することで遠慮している患者の要望にも応えることができました。

波及効果 26

情報収集の方法改善後、インシデント件数

0

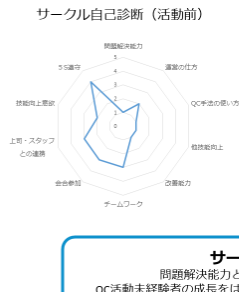
件

調査期間：2024年10月1日～11月30日

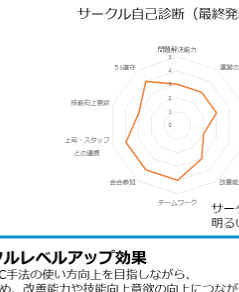
情報収集の時間が減少したことで、受け持ち看護師の情報収集不足に関連したインシデントの発生が懸念されていましたが、改善後の調査の結果、インシデント件数は0件でした。

サークルレベル最終評価 28

サークル自己診断 (活動前)



サークル自己診断 (最終発表前)



サークル力：平均1.2→2.8  
明るく編組：平均3.0→3.8

**サークルレベルアップ効果**

問題解決能力とQC手法の使い方向上を目指しながら、QC活動未経験者の成長をはじめ、改善能力や技術向上意欲の向上につながった

今回の活動を通じて、QC手法への理解が深まり、問題の捉え方や改善の進め方にも自信がつけられました。サークル力の平均は2.8点まで向上することができました。「問題解決能力」「活動能力」に大きな伸びが見られ、QC未経験者の育成だけでなく、個々の意識改革やスキルアップにもつながったと感じています。

反省・今後の対策 30


ステップ	良かった点	こうするともっと良かった点
テーマ決定	スタッフの意見を基に、心身の健康を考えたテーマ決定ができた	
現状把握	データを集める中で、様々な観点から現状を把握できた	目標設定が幅広く多くのデータを集め、分析するに時間を要した
要因解析	メンバーで意見を話し合っって要因について考え、真因を検証していくことができた	問題を多く、真因の特定に多くの時間を要した
対策立案	メンバーの様々な視点から対策を考えることができた	
対策実施	全スタッフで取り組めることができた	要因解析、対策立案までに時間を要し、対策実施開始となるまでに時間を要した
効果の確認	夜勤の前残業をなくすことができた	
標準化	マニュアル作成や業務の見直しをし、標準化することができた	

今後に向けて

- 標準化の継続
- スタッフ間で声を掛け合う
- 残業時間の確認

まだまだ看護の質を上げられるはず!!

患者さんの安心と信頼のために  
カイゼンを続けていこう!



反省です。残業0を実現した今、大切なのはこの状態を維持し、さらに発展させることです。今後もスタッフ間で効率化を追求し、お互いに協力しあうことで、よりよい職場環境と質の高いケアを提供し、患者さんにとって安心と信頼を築いていけるよう努力していきます。